

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立ひびき高等学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	さまざまな学びをデザインし、高校教育の10年先をいく地域社会に唯一無二の学校を目指す。			A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	A	
「成果」 ・志願者数の増加 ・国公立大志願者の増加 「課題」 ・広報戦略の更なる改善 ・学校行事の改善 ・ICTの活用促進	授業改善	基本的な知識・技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、学びに向かう力や人間性を涵養する授業改善を推進する。		
	生徒指導・生徒理解	一人一人の異なる能力・適性・興味・関心、生育環境等に対し、生徒の言葉に耳を傾け、多面的・総合的に理解して、個性の伸長を図る。		
	心の教育の推進	特別活動、体験活動や地域活動(生徒海外研修、ボランティアなど)をととして心の教育を充実させ、規範意識、人権意識、倫理観、道徳心、情報リテラシーなどを醸成する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	新教育課程への対応の充実と教務に関する業務の確実な遂行	新教育課程完成年度に向けて、開講講座の適切な管理と周知を図る。	A	教科や年次と検討を続け、新教育課程の完成度を高める。新支援システムの機能を最大限生かして、日々の業務や受講登録を円滑に進められるようにする。 ホームページのリニューアルを契機に、体験入学会等の行事はネット申し込みとし、申し込みの簡略化を図る。新転任者に早い段階で入試相談業務に慣れもらうよう工夫する。
		新支援システム下における学事に関する業務を円滑に遂行する。	A	
	中学校、関係機関等への広報活動の充実	「新教育課程実践の手引き」等を活用し、教職員のガイダンス技能の向上を図る。	B	
		生徒配布の「学習ガイドブック」を分かりやすくし、広報ツールとしても活用できるようにする。	A	
生徒指導部	社会の一員としての責任を果たすことができる自己指導力の育成	個性豊かな高校生活に取り組める学修環境づくりを推進する。	A	個に合わせた生徒指導を全職員で行い、情報を共有し、生徒自身の良い方向への行動変容につなげる。また、防犯はもちろん、本校で学ぶルールとして、IDカードの着用を徹底する。 合理的配慮を要する生徒への対応、外部機関との連携など専門職や授業担当者等と連携を深める。また、対応を組織的にあらゆる角度から支援できるよう、今後も早期発見、支援に努める。
		言語環境を整えるなど、正しい言葉遣いの励行を推進する。	B	
	教育相談の充実、支援体制の強化等「学校力」の向上	自己管理の意識付けと自己決定のための情報提供を充実させる。	A	
		研修部と連携し、職員全体の指導力向上を図る。	B	
進路指導部	部内の各課と各年次や各教科と連携し、統制がとれる部の体制作りを目指す、生徒の進路意識を高める。	高大等連携事業の改善と教科担当者と連携し、進路指導の環境改善をはかる。	A	高大連携先の連携体制の確認が必要。全年次に対し、進路意識をつけさせるための対策として近未来ガイダンスの内容の見直しやHR活動での内容の改善。 就職や進学の手続きの流れを確立し、卒業年次と連携する。インターンシップ等で職業意識をつけさせる。進路規定の改定や提出書類の見直しを図る。
		ホームルーム活動や日頃の学習を通して、生徒の学ぶ意欲の向上に努める。	A	
	職員間の連携、保護者や生徒により多くの進路情報を提供することにより、生徒の選択肢の幅を広げ、個に応じた進路実現を目指す。	生徒への幅広い情報提供と生徒の進路目標の早期設定を目指す。	B	
		インターンシップへの参加促進を行い、就職希望者の意識を高める指導をする。	A	
企画部	生徒に様々な学びの方法を提供することができるよう、教員の専門的資質を高める研修の充実を図る。	保護者等や外部関係者等の協力関係の推進をはかり、生徒の進路実現に繋げる。	A	相互授業参観をより広く浸透できるよう、内容の充実を更に図りたい。他校の取り組みや研究授業にも積極的に参加を促し、本校の授業改善に向けて、周知していきたい。 生徒の探究活動に関する意識は高まっていると感じているため、次年度もさらに深化できるような企画・運営を行いたい。芸術鑑賞会も意義や目的をはっきりさせながら、実施に向けて計画していきたい。
		生徒理解を深める研修の充実を図る。	B	
	担当業務や行事の点検、他分掌との連携により円滑な運営に努める。	他教科の相互授業参観を促進し、各自の授業改善に繋げる。	B	
		授業アンケートを効果的に活用できるよう質問項目を精選し、実施方法を更に工夫する。	A	
年次部	基本的な生活習慣の確立 自己肯定感と自立心の涵養 自己指導能力の育成	講座制「総合的な探究の時間」の実施・評価を充実させる。	A	今年度前期の単位修得率は、85.1%で4ポイント程度下がった。自己実現のために、授業に出席することや単位修得の大切さ等について、丁寧な指導を行う必要がある。 過去3年間コロナ禍のため、人間関係の距離感が掴めていない生徒が見受けられるので、お互いに他者を尊重し合う力をつけさせる必要がある。
		SDGsについての意識向上を目指し、探究活動の深化を図る。	A	
	生徒の良さを生かした学校生活段階的な進路意識の育成 多様性を受容する人権意識の育成	教育活動全般を通じて、規範意識と自立心を身につけさせる。	B	
		授業出席率、及び単位修得率90%以上を目指す。	C	
年次部	生徒の良さを生かした学校生活段階的な進路意識の育成 多様性を受容する人権意識の育成	修学課や専門職との連携を強化し、生徒・保護者の支援を行う。	B	
		個人面談や保護者との連絡を通して、学校生活の充実を図る。	B	
	自己肯定感と自立心の涵養 自己指導能力の育成	ホームルーム活動を通して、系統立てた進路学習の充実を行う。	A	
		教育活動全般を通して人権意識の涵養を図り、他者を理解する実践力をつける。	B	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 体験入学の申込みの簡略化はよいと思う。 志願倍率の高さはよいが、本校の魅力をもっとPRし、安易な選択ではなく、積極的に本校を志望する生徒を集めてほしい。 新教育課程で、生徒にとって学びやすい環境を整備している点は評価できる。
A	<ul style="list-style-type: none"> 人とのコミュニケーションが苦手な生徒については対応が難しいと思うが、なるべく生徒が相談できる雰囲気づくりをお願いしたい。 学校としての取組を説明してもらい、努力している様子が伝わった。
A	<ul style="list-style-type: none"> 卒業が目標ではなく、その先が生徒にとって重要となるので、生徒一人一人のセルフイメージを高め、卒業後の進路が開かれるような取組および情報提供をお願いしたい。 退学・離職している生徒の状況把握をお願いしたい。
B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のために有益な企画は積極的に行ってほしい。 授業にタブレットを取り入れるのであれば、それなりの授業プランを教師サイドがしっかりもっている必要がある。今後の実践に期待する。
B	<ul style="list-style-type: none"> 安易に単位を落とすことを選択する生徒がいるので、何か救済措置があれば、単位を落とさず、努力するのではないかな。 単位を修得させるための授業では、生徒は意欲を失い、自ずと修得率も下がると考えられる。教師の個性を生かした魅力ある授業の創造に期待する。
評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向の生徒が増える中、「学校に行きたくない」から「学校にいてみようか」と思える環境づくりをしてほしい。 「あなたの学校の魅力は何ですか」という問いに、教師が胸を張って答えることができる学校であってほしいと強く願う。 	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・本校のシステム(単位制・三部制)について、中学校の生徒・保護者・教員はもとより、地域住民に十分浸透していないので、次年度はPR活動をさらに強化する必要がある。
 ・生徒が安易に欠席したり、単位を落とすことがないような魅力ある授業づくりを一層行う必要がある。

・不登校傾向の生徒が増える中、「学校に行きたくない」から「学校にいてみようか」と思える環境づくりをしてほしい。
 ・「あなたの学校の魅力は何ですか」という問いに、教師が胸を張って答えることができる学校であってほしいと強く願う。